

令和7年度生息状況調査結果 (ニホンジカ：県中部区域)

1. 目的

令和7年度に実施した指定管理鳥獣捕獲等事業（以下「指定管理事業」という。）の事業評価、及び令和8年度の指定管理事業実施計画を検討するための基礎情報とすることを目的として、ニホンジカ（以下「シカ」という。）の自動撮影カメラ調査（以下「カメラ調査」という。）を実施した。

2. 対象区域

カメラ調査地点の分布を図1に示す。

カメラは令和6年度に引き続き、県中部区域及びシカ分布拡大の前線区域に設置した。

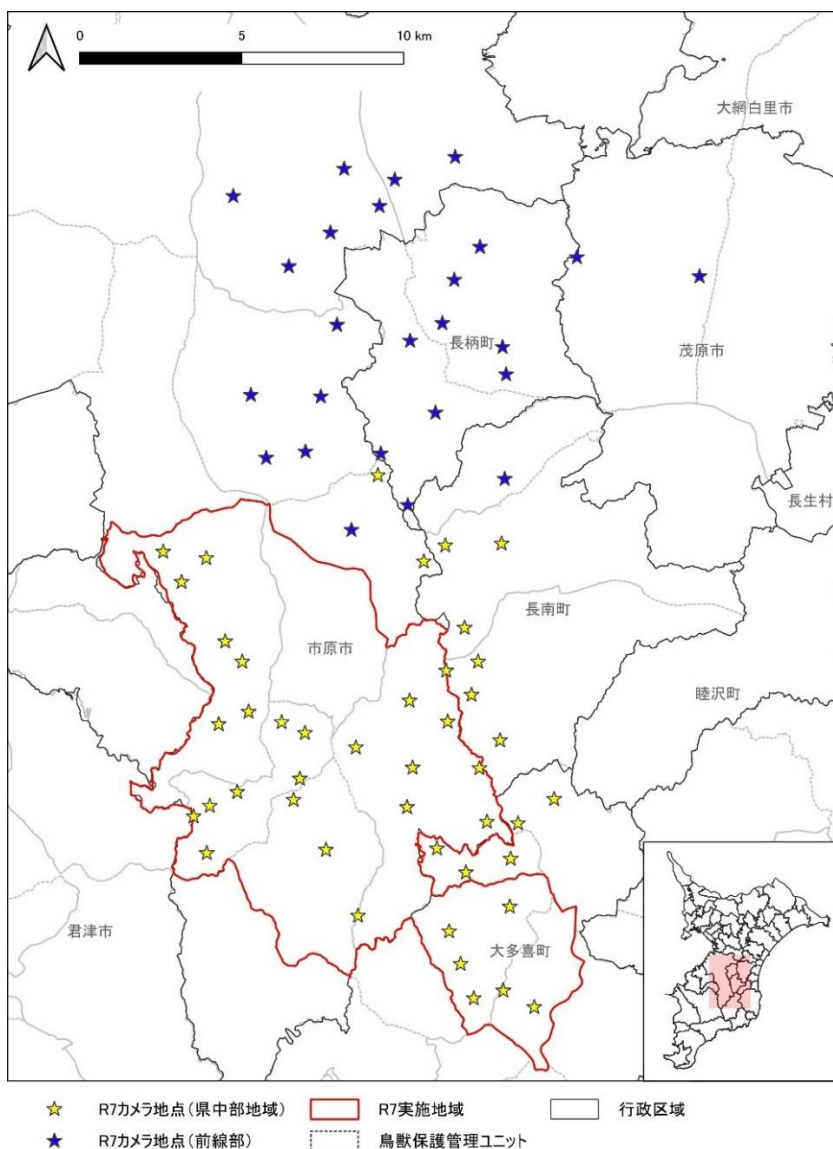


図1 カメラ調査地点の分布（県中部区域及び前線部）

3. 調査期間

地区1（県中部区域）：令和7年1月～令和7年12月

地区3（前線部区域）：令和7年1月～令和7年12月

4. 調査方法

カメラの設置にあたっては、獣道等のニホンジカが撮影されやすい場所を選定し、立木に獣道が撮影されるように画角を調整して設置した。

回収したデータは、①地点別・月別のニホンジカの撮影枚数、②ニホンジカの成獣メスの地点別・月別撮影枚数について集計するため、データは、ニホンジカの性別（オス・メス・不明）で整理し、さらに年齢（成獣・幼獣・不明）で分類した。なお、各個体の年齢（成獣・幼獣）の判断基準は、以下のとおり。

- ・成獣メス：体サイズの小さな個体とともに写っている大きな個体。または撮影時期が夏・秋・冬の場合、角がなく、かつ体サイズから明らかに成獣と判断できる個体。
- ・成獣オス：2 尖以上の角を持つ個体（1 尖の個体は成獣と確定できないため不明とした。）または尖数が不明だが角を持ち、かつ体サイズから明らかに成獣と判断できる個体。

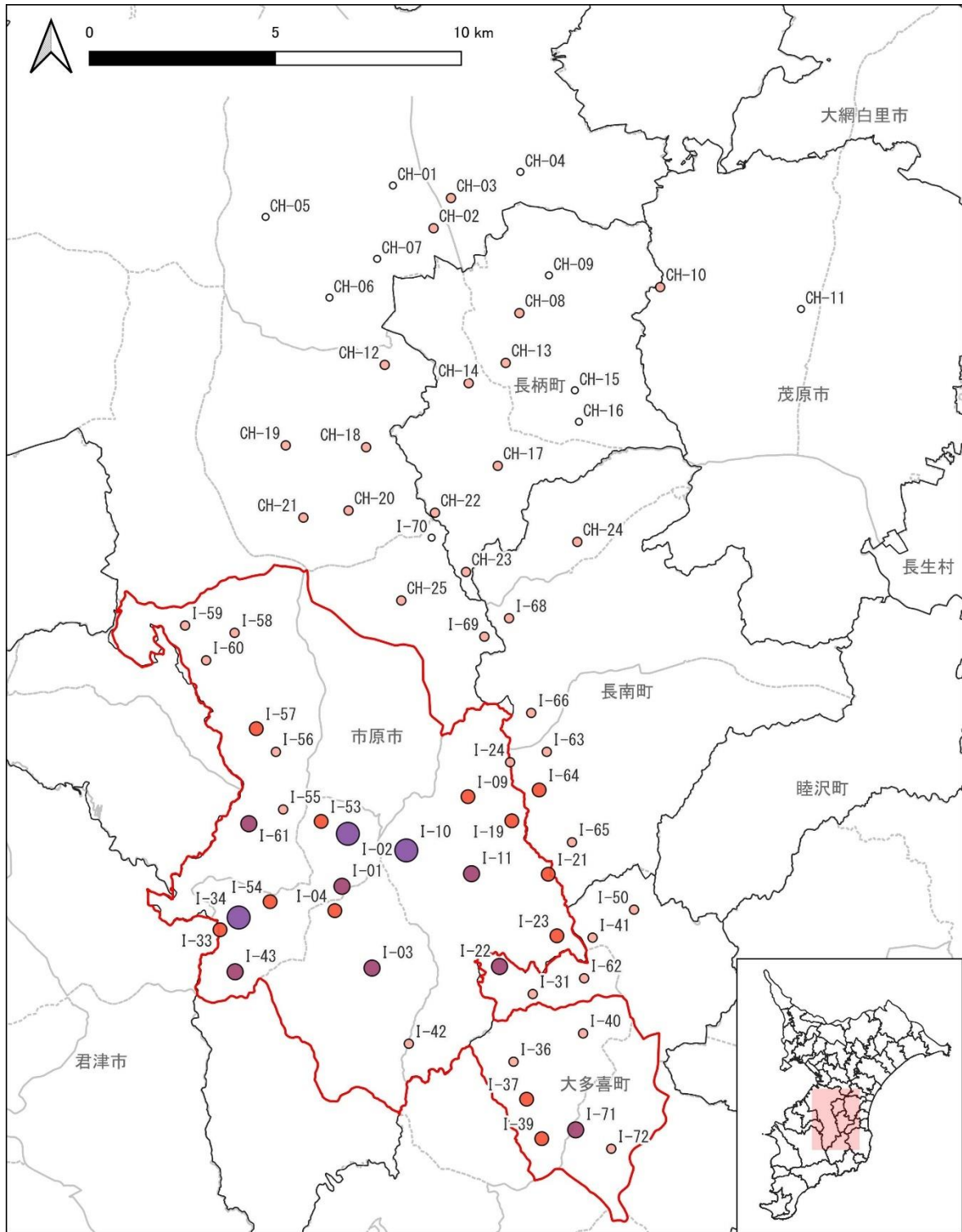
また、集計した撮影枚数とカメラ稼働日数から、各カメラ地点についての撮影頻度（1日あたりの撮影枚数）を算出した。そして、各カメラ地点の撮影頻度についてユニット毎の平均値を算出した。

5. 結果

(1) 令和7年度調査結果

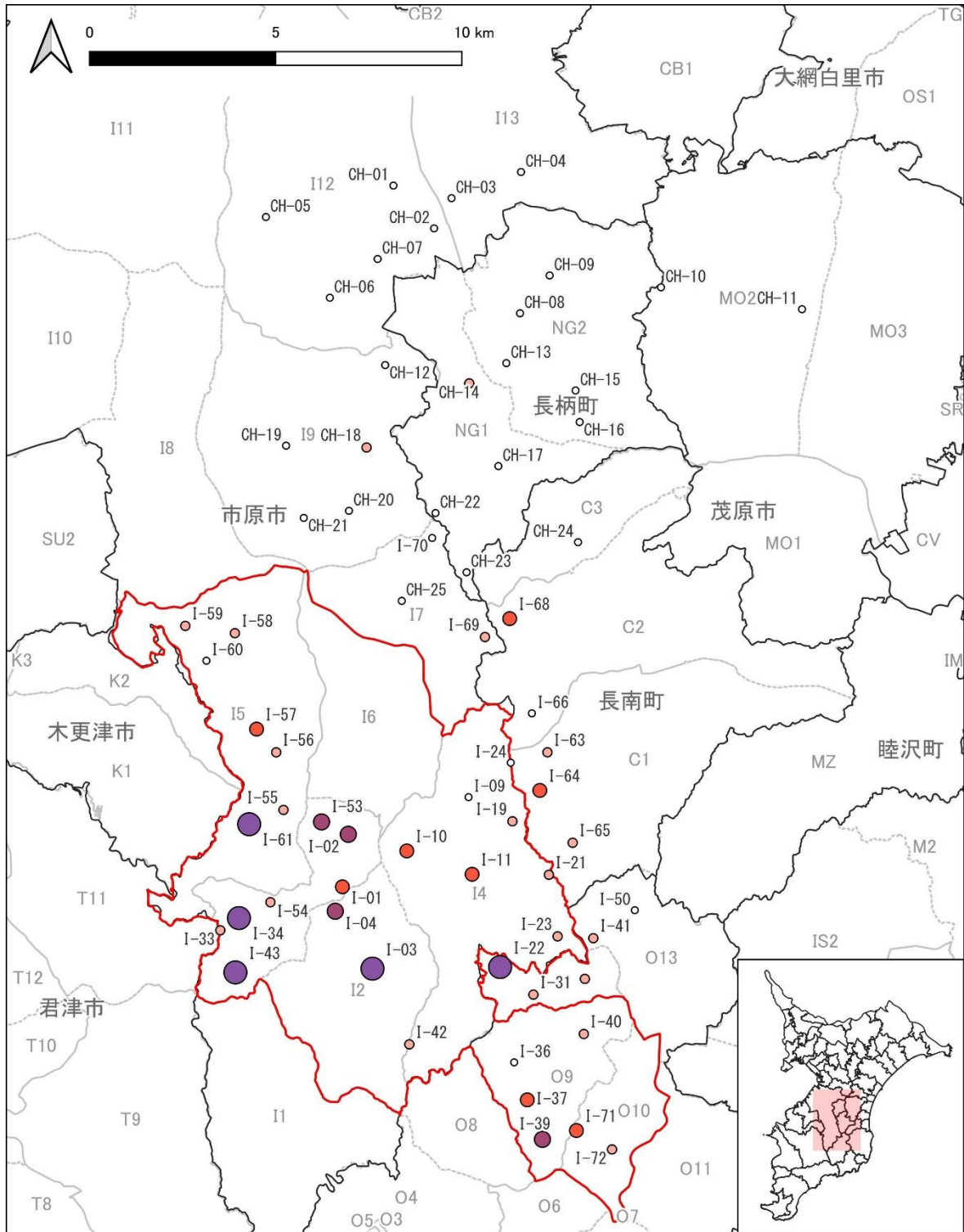
県中部区域及び前線部の各カメラ地点におけるシカ全体の撮影頻度と成獣メスの撮影頻度を図2及び図3に、県中部区域における各ユニットの調査地点のシカ全体及び成獣メスの全期間（令和7年1～12月）の平均撮影頻度を図4及び図5に示す。

- シカ全体の撮影頻度が最も高かった地点は、区域西側に位置するI-34（7.302枚/日）で、次いで区域中央部のI-10及びI-02であった。成獣メスについては、市原市の南西部を中心に撮影頻度の高い地点が点在した。
- シカ分布拡大前線部に位置する地点では、過半数で撮影頻度が0～1.0枚/日と低かったが、北側ほどシカが撮影されなかった地点が目立った。一方、同エリア内では、2地点（CH-14及びCH-18）において成獣メスが撮影された。
- ユニット別のシカ全体の平均撮影頻度は、区域西部のユニット（I3）が最も高かった。次いで、南西部（I2）から中央部（I4）にかけて、平均撮影頻度の高いユニットが連続して分布したほか、大多喜町のユニット（O10）も高い結果であった。成獣メスについては、全体と同様に区域西部（I3）及び南西部（I2）において平均撮影頻度が高かった。



シカ撮影頻度(枚/日)	● $1.0 < X \leq 2.5$	▭ R7実施地域
○ 0	● $2.5 < X \leq 5.0$	▭ 鳥獣保護管理ユニット
○ $0 < X \leq 1.0$	● $5.0 < X$	▭ 行政区域

図 2 シカ全体の撮影頻度（令和 7 年 1 月～令和 7 年 12 月）（県中部区域及び前線部）



成獣メス撮影頻度(枚/日) ● 0.25 < X ≤ 0.5 R7実施地域
 ○ 0 ● 0.5 < X ≤ 1.0 鳥獣保護管理ユニット
 ○ 0 < X ≤ 0.25 ● 1.0 < X 行政区域

図 3 成獣メスの撮影頻度（令和 7 年 1 月～令和 7 年 12 月）（県中部区域及び前線部）

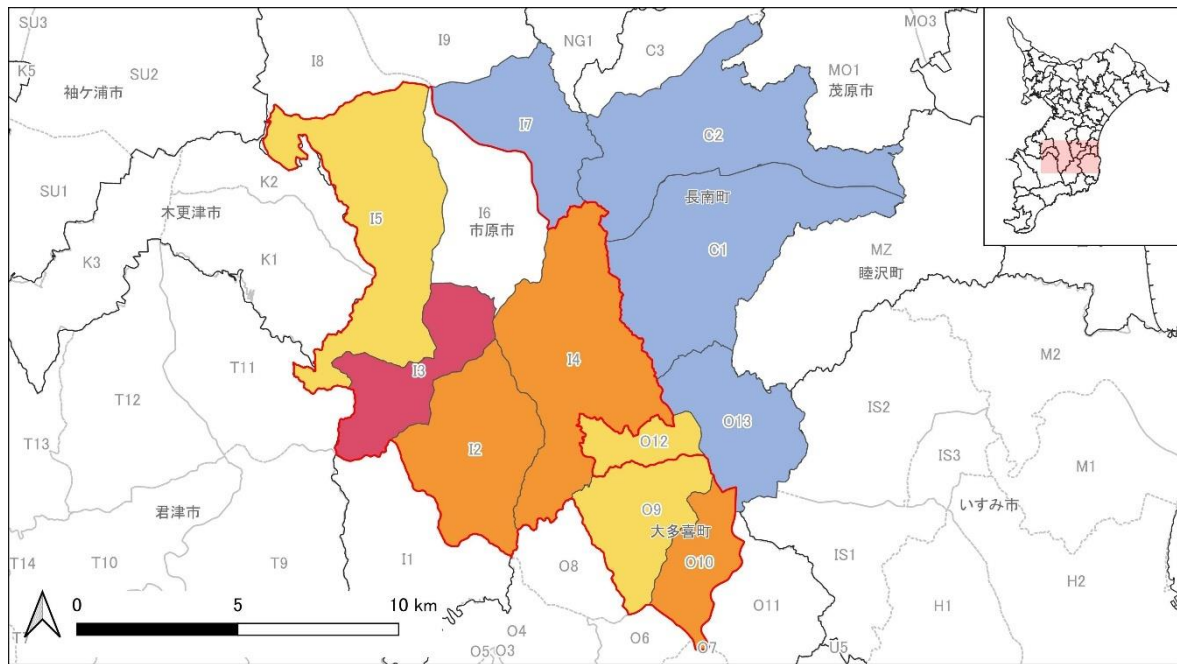


図 4 ユニットごとのシカ全体の平均撮影頻度(令和 7 年 1 月～令和 7 年 12 月)(県中部区域)

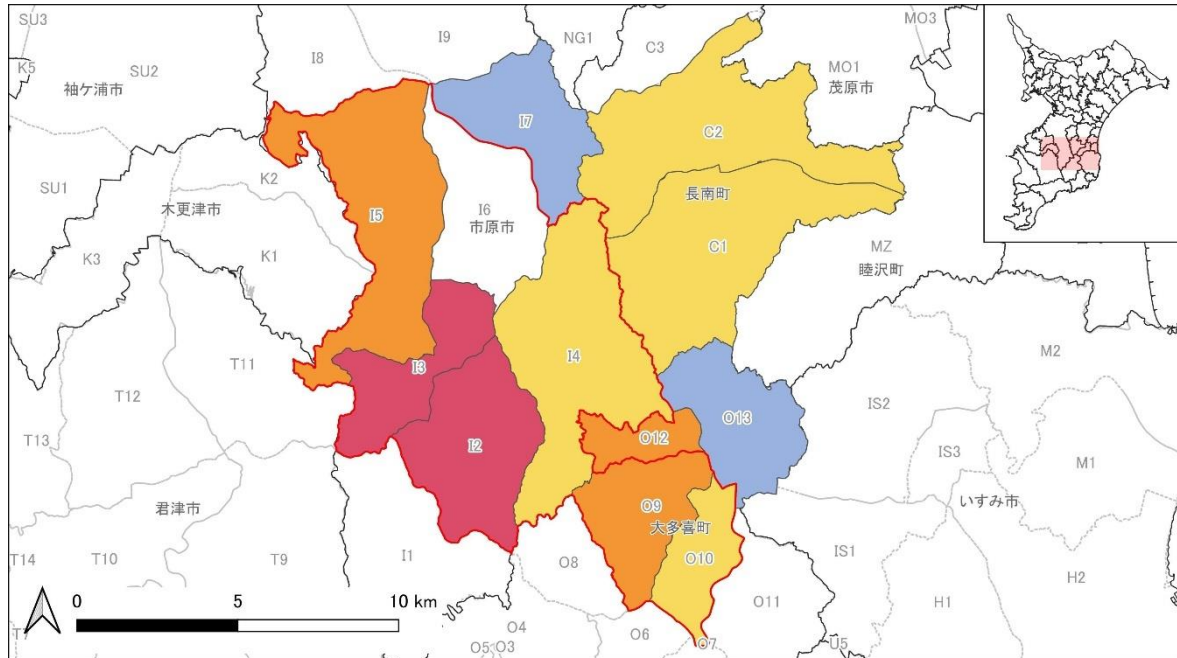


図 5 ユニットごとの成獣メスの平均撮影頻度(令和 7 年 1 月～令和 7 年 12 月)(県中部区域)

(3) 経年変化

1) ユニットごとの撮影頻度の推移

令和3年から令和7年の県中部区域におけるユニットごとのシカ全体の平均撮影頻度を表1に、成獣メスの平均撮影頻度を表2に示す。

- 市原市では、ユニットI5を除くすべてのユニットにおいて令和7年にシカ全体の撮影頻度が増加し、このうちユニットI2では令和5年以降継続的な増加傾向がみられた。また、大多喜町のO10では令和4年から、O13では令和3年から令和6年にかけて平均撮影頻度が増加していたが、令和7年はいずれも減少に転じた。
- 成獣メスについては、市原市のI3及びI4において、令和5年以降減少傾向が続いている。また、大多喜町のO10では、例年、同町内の他ユニットよりも突出して高く(2.2枚以上/日)、高止まりの状態で推移していたが、令和7年は周辺ユニットと同程度の値まで低下した。

表1 令和3年～7年のユニットごとのシカ全体の平均撮影頻度（県中部区域）

市町村名	ユニット	撮影頻度（枚/日）			
		R4	R5	R6	R7
市原市	I2	2.96	2.19	2.58	2.90
	I3	2.91	4.93	3.41	3.64
	I4	2.35	2.37	1.8	2.17
	I5	2.52	2.42	2.51	1.11
	I7	0.09	0.23	0.09	0.28
大多喜町	O9	0.97	0.74	1.3	1.09
	O10	4.07	4.31	5.31	2.40
	O12	2.28	1.83	2.43	1.98
	O13	0.83	1.01	2.81	0.57

撮影頻度低  撮影頻度高

※「-」調査されていない、もしくはカメラ設置期間が6ヶ月以下のものは比較対象外とし、データなし
※データは、1月～11月で集計

表2 令和3年～7年のユニットごとの成獣メスの平均撮影頻度（県中部区域）

市町村名	ユニット	撮影頻度（枚/日）			
		R4	R5	R6	R07
市原市	I2	0.82	1.12	1.17	0.92
	I3	1.09	2.71	1.55	1.11
	I4	0.76	0.86	0.59	0.17
	I5	0.72	0.87	1.07	0.38
	I7	0	0.02	0	0.01
大多喜町	O9	0.56	0.38	0.66	0.27
	O10	2.21	2.6	2.2	0.14
	O12	1.08	0.92	0.83	0.38
	O13	0.04	0.2	0.23	0.03

撮影頻度低  撮影頻度高

「-」: 調査されていない、もしくはカメラ設置期間が6か月以下のものは比較対象外とし、データなし

※1 データは、1～11月で集計

※2 性別・年齢は、判定者によって差異がある可能性がある異なる可能性がある

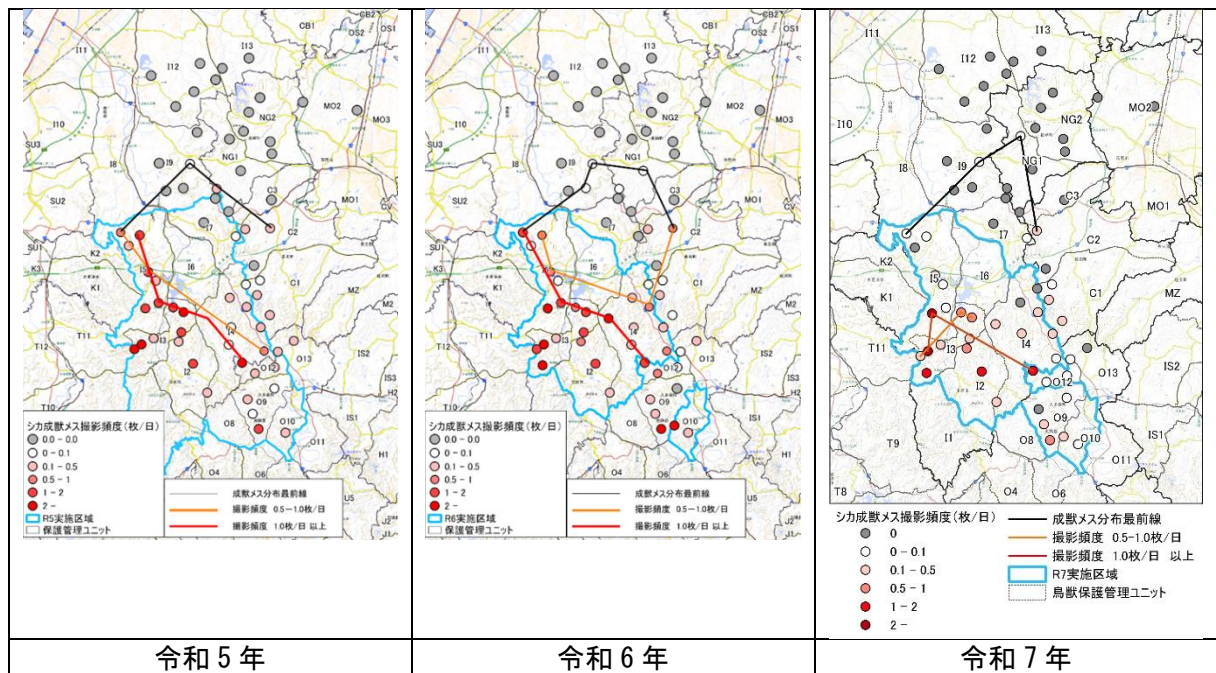
2) 成獣メスの分布状況の推移

本事業では、令和5年以降県中部区域の北側（前線部）にカメラを設置し、シカの分布動向をモニタリングしている。

シカ分布拡大防止の評価にあたり、カメラ調査において成獣メスが確認された地点を「シカの定着確認地点」と定義し、この定着地点が実施区域の北側に向かって広がることを、本事業における「分布拡大」と定義した。

令和5年以降の成獣メスの撮影頻度を図6に示す。

- 令和6年は成獣メスの定着地点の北上がユニット NG1 でみられ、令和7年は同様のユニットでさらに北側のカメラで成獣メスが撮影された。
- 令和5年から令和7年にかけて、シカの分布が徐々に拡大している可能性が考えられることから、引き続き前線の進退については注視する必要がある。



※性別・年齢は、判定者によって差異がある可能性があり異なる可能性がある

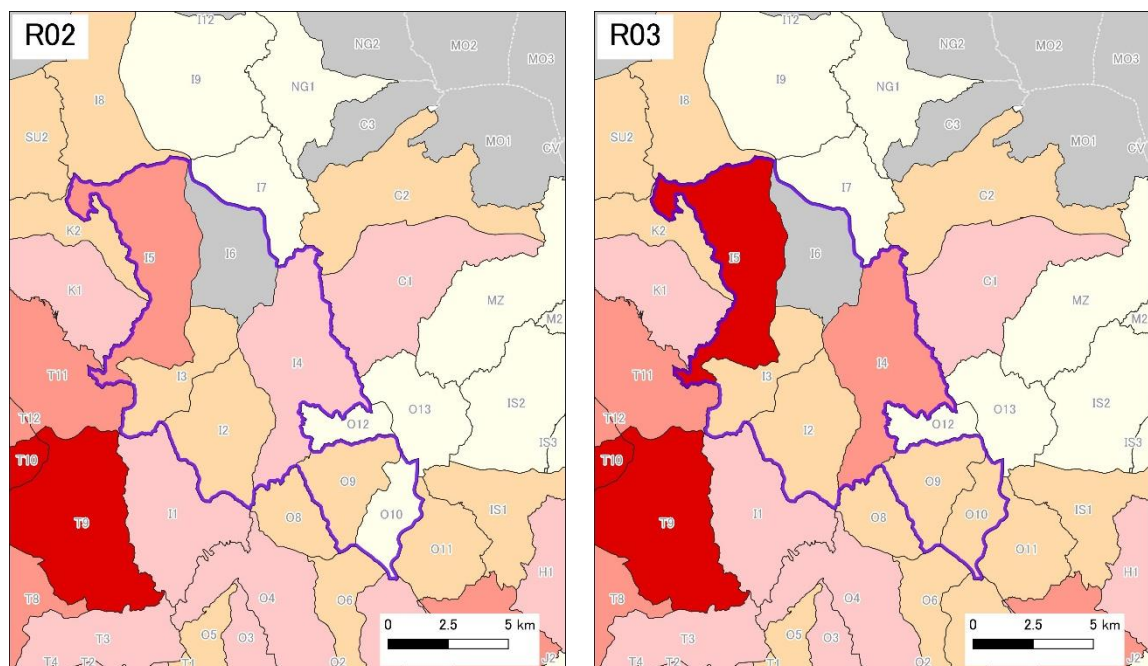
図6 令和5年～令和7年の成獣メスの撮影頻度（県中部区域及び前線部）

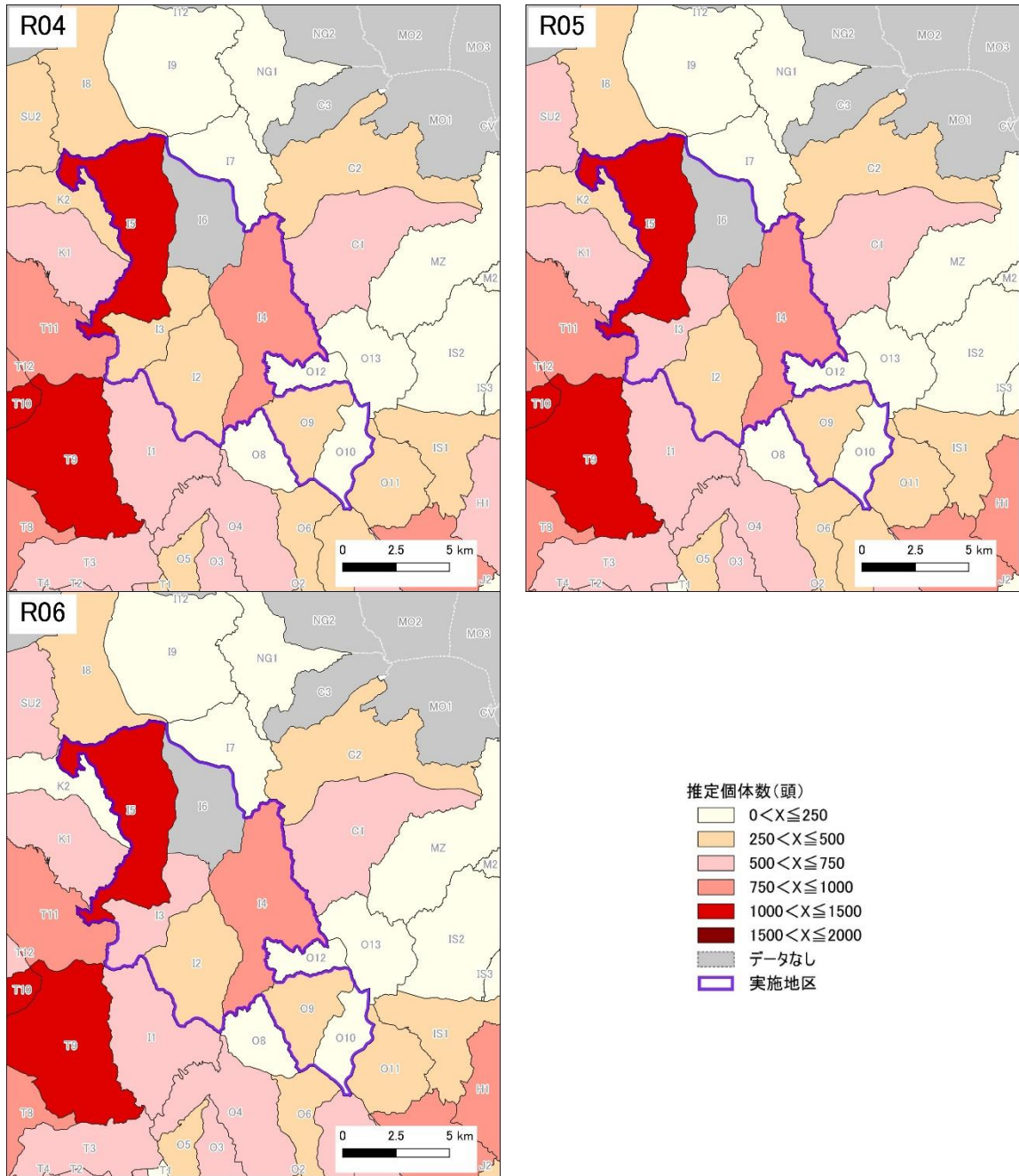
参考：推定個体数等の推移

表 3 推定個体数（令和2年度～令和6年度）

ユニット	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
12	460 (350-578)	472 (350-603)	491 (348-645)	498 (327-685)	498 (291-739)
13	406 (302-518)	434 (318-558)	471 (336-617)	516 (358-691)	565 (372-787)
14	688 (503-882)	757 (549-976)	822 (579-1083)	888 (599-1206)	936 (590-1343)
15	952 (761-1151)	1020 (804-1242)	1086 (835-1348)	1147 (851-1463)	1187 (834-1585)
09	378 (265-497)	360 (236-491)	367 (226-518)	362 (204-537)	352 (174-561)
010	245 (182-314)	254 (184-328)	226 (146-312)	202 (111-302)	176 (73-297)

※値は中央値、括弧内は95%信用区間を示す。





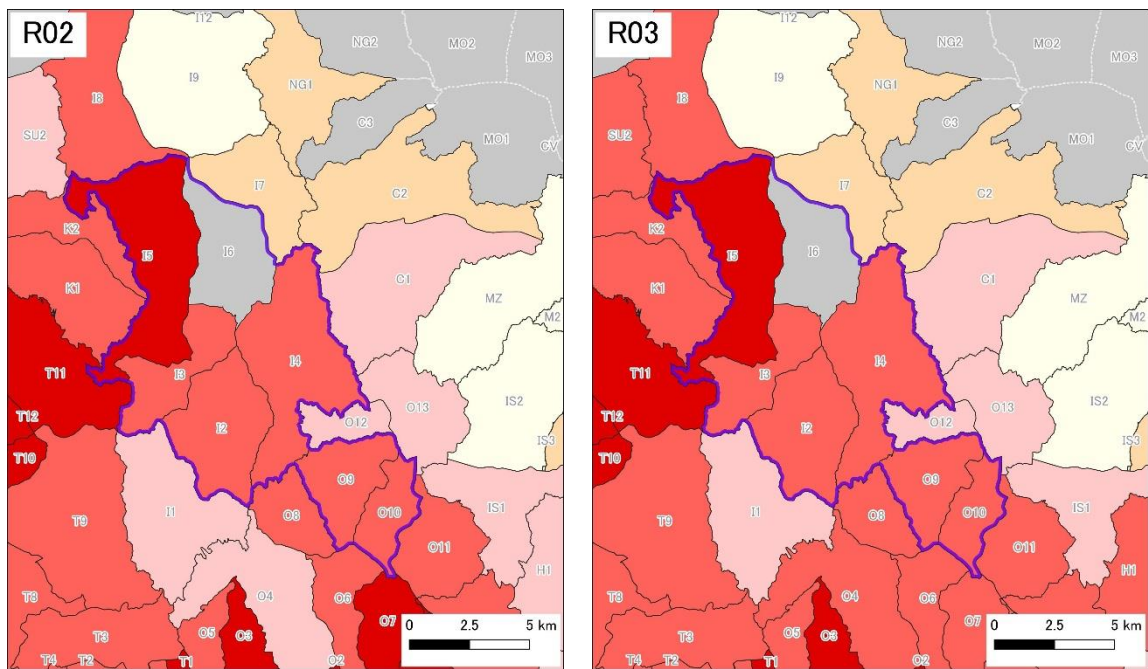
※ 実施区域の範囲はR07実施計画に基づくため、参考

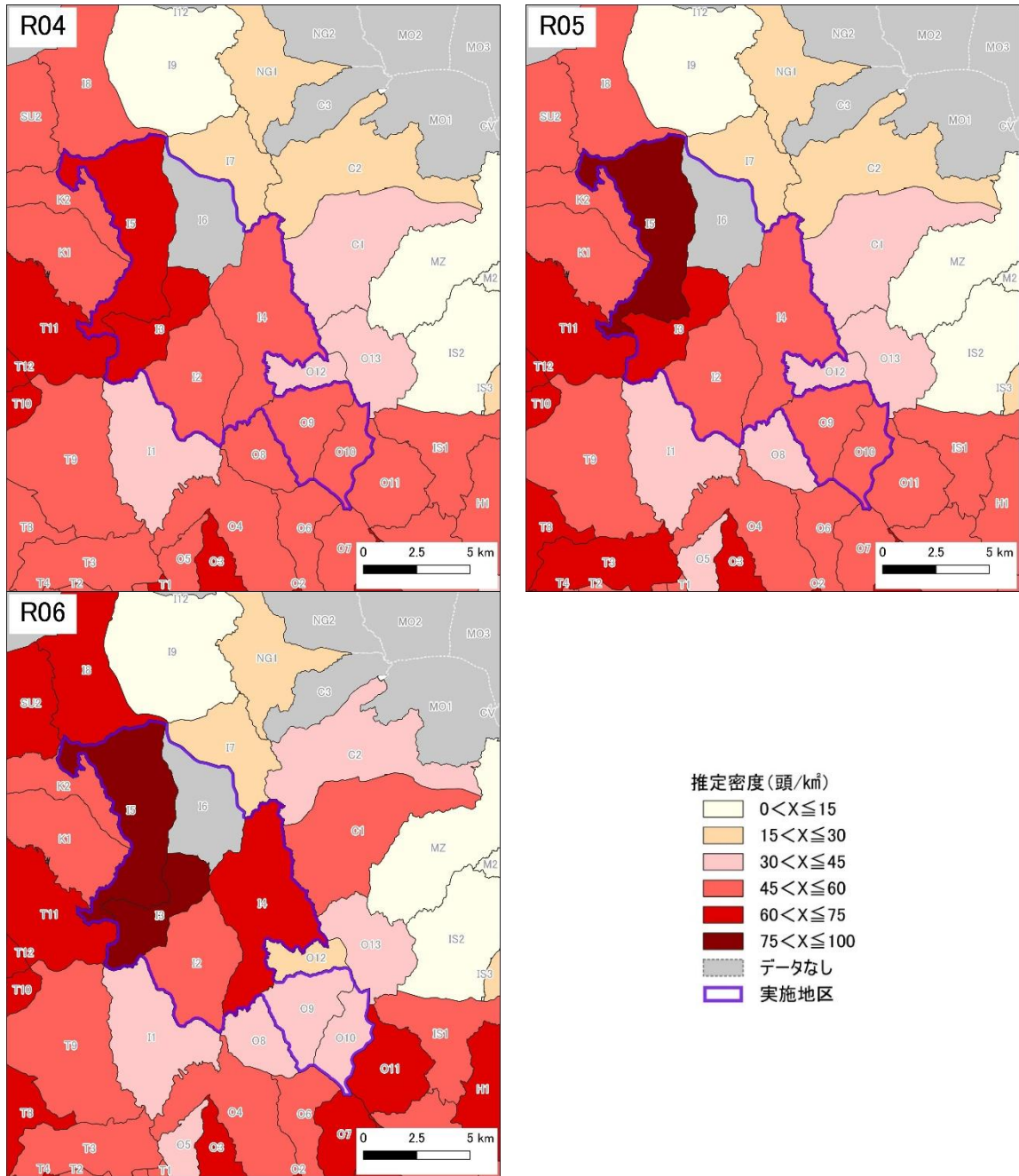
図 7 推定個体数の推移（令 4 和年度～令和 6 年度）

表 4 推定密度 (頭/km²) (令和2年度～令和6年度)

ユニット	森林面積 (km ²)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
12	8.6	53.7	55.1	57.2	58.1	58.1
13	7.5	54.5	58.2	63.2	69.3	75.8
14	15.0	45.7	50.3	54.7	59.0	62.2
15	15.2	62.6	67.1	71.4	75.4	78.1
09	7.8	48.2	45.9	46.8	46.1	44.8
010	4.3	57.0	59.1	52.6	47.0	41.0

※推定密度は、推定個体数(中央値)を各ユニットの森林面積で除して算出。





※1 実施区域の範囲はR07実施計画に基づくため、参考

※2 推定密度は、推定個体数を各ユニットの森林面積で除して算出

図 8 推定密度の推移（令和4年度～令和6年度）